

■ 2009年度 入試問題分析シート ■

名古屋大学

前期日程

科目	物 理
----	-----

総 括

試験時間	情報(自然) 75 分<1 科目>, 他 150 分<2 科目>	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
満点(配点)	情報(自然) 300 点<1 科目>, 理・医・工 500 点, 農 600 点<2 科目>	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総 論〉

問題 I、II は標準レベルだが、同じく標準レベルとした昨年の問題 I、II より易しくなり、また目新しい問題もないので解き易くなっている。

この程度の問題であれば、平均点はかなり上がるであろう。特に医学部においては満点に近い得点が要求されると思われる。

〈特記事項・トピックス〉

例年出題されているグラフの読み取りやグラフの作成がなく、名大らしさが薄れた。

〈合格への学習対策〉

教科書や参考書を用いて基礎事項(法則、定義 etc.) を理解し、それに基づいた問題演習を日頃から心掛ける。演習としては、難易度の高い問題よりも標準レベルの(自分にとって)目新しい問題を扱う方が効果的であろう。その際、名大の解答用紙の計算欄に入る程度の簡潔な解法過程の作成を練習しておこう。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
I	記述	I・II	力学 バネのついた台車と物体 A、B の衝突	2 物体 A、B を扱っているので、問題文を読んでいる段階では「ややこしいのではないか」という不安を感じた人もいたのではないかとと思われるが、問題は A と B が離れた後の動きを要求していないので、それほど複雑ではない。	標準
II	記述	II	電磁気 一様電磁場中における荷電粒子の運動、コンデンサー回路	典型問を複合したもので、学生の基礎知識を問うには良い問題である。	標準
III	記述	I	波 反射型回折格子、屈折	問 2 の設問 (4) 以外は、教科書の例題程度の問題である。	やや易

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を 5 段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。